

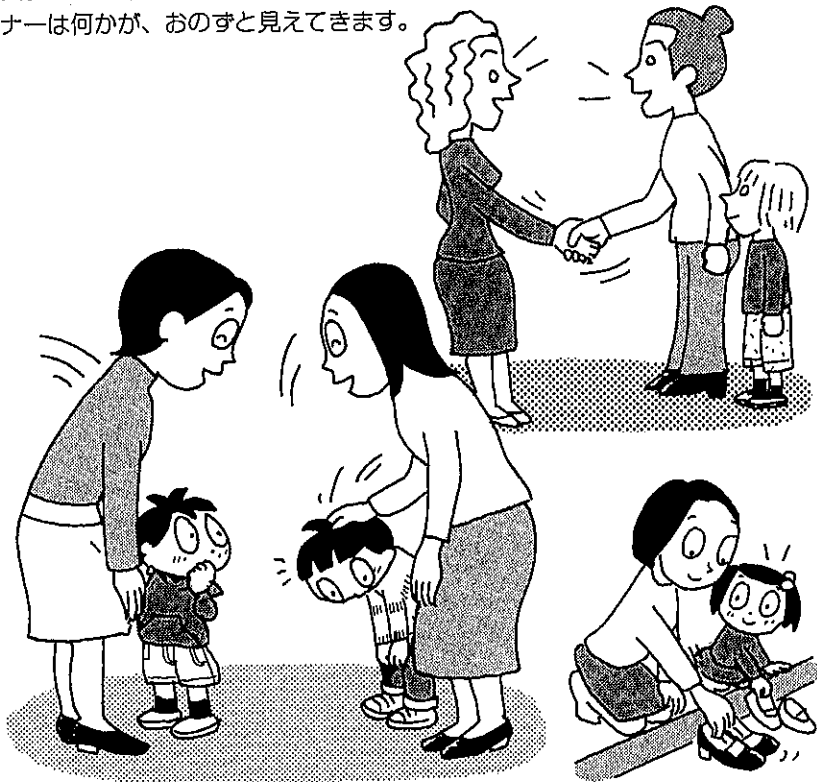
食のマナー 食事のマナー

マナーとは

マナーとは、人が一人で生きるわけではなく、「群れ」に属し、折り合って生きるから、その「群れ」をよりよくしていきたいから、必要なのです。

自分が自立し、自律力をつけていく成長過程で、身につけたいマナーは段階的に広がります。「群れ」が違えば、正反対のマナーがありうるわけです。

「子どもには長い人生がある、そこで何が必要か」というスタンスで考えると、今の生活の中で伝えていくべきマナーは何か、おのずと見えてきます。



【食のマナー子どもの自力育て】加古明子（芽ばえ社）より

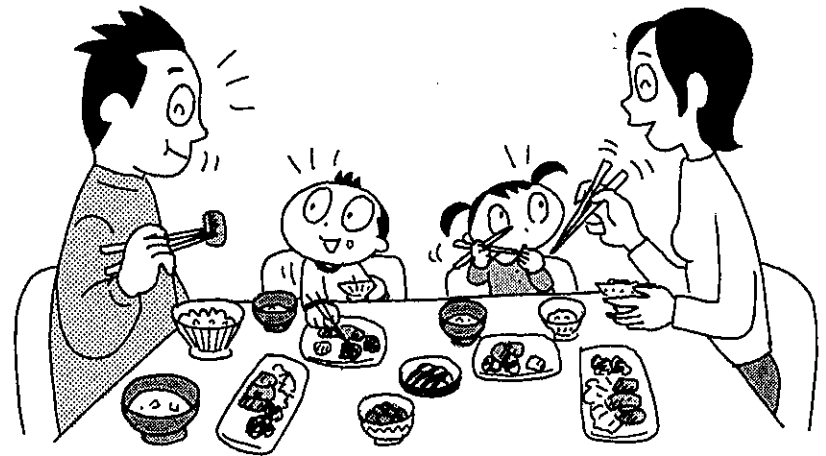
マナーの3原則

食べるマナーは、生きるマナーと同じ、段階的に子どもと育てていきましょう。忘はしつけの3原則、

- 1 自他は表裏、
- 2 生命に資するように、
- 3 子の自分育てに役立つように。

例えば、箸など先のとがった物を振り回せば自他ともに危険ですし、凶器にもなります。最初から扱いの良い悪いを教えるべきです。ぼっかり食べ、偏食は生命保持を妨げ、成人病への回路をつくってしまうこともあります。

結局は、個々に、なにを・なぜ選択するか、しないかの支援の問題です。小うるさい指摘・約束よりも、一人前の存在を尊び、失礼のないように、良質の見本をみせてあげましょう。



【食べもの文化】No 422 加古明子：一緒に楽しくをめざすマナー（芽ばえ社）より